

感動の場

『晩秋』

1945 年 小川原 脩 画



1945（昭和 20）年、東京大空襲の後に家族を疎開させ、自らも郷里の倶知安に戻って終戦を迎えた小川原にとって、『晩秋』は画家としての歩みを改めて問い直す出発点でした。小川原はこの作品について「終戦の年、郷里へ引き揚げてその秋の作品。ひどくみじめな気持ちだった」と記しています。敗戦直後の混乱の中で抱いた心情がにじむ言葉です。

イワオヌプリ、ワイスホルン、倶知安の町を背景に、大きな馬と手綱を引く人物が描かれています。人物は馬を操るのではなく、ただ伴いながら歩む影のように表されています。戦時下に行われた画家の農村派遣に加わった際には、馬や農婦、作業風景を詳細に描き込んでいた小川原ですが、本作ではそうした細部をあえて排し、簡潔な形にとどめています。そこには、戦争のただ中で積み重なった体験が影を落とし、以前とは異なる眼差しであるように思われます。

いかにして『晩秋』へと至ったのでしょうか。展覧会『戦時下の画家～小川原脩の戦争を考える』では、従軍や農村派遣など小川原の経験に光を当てながら、作品に刻まれた時代の重みをともに考えていきます。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）

写真に見る ちよつと昔の倶知安

－ 駅前通り －

ふる探訪

510 回

1966、1967（昭和 41、42）年の産業観光まつり（現在のくっちゃんじゃが祭り）の写真です。華やかなパレードや踊りとともに、にぎわう駅前通りの商店街が写されています。当時は自動車が普及する前で、人や荷物の移動は鉄道が中心で、駅前通りには約 100 軒の店舗が並び、活気に溢れていました。懐かしい店名の中には今も営業を続けるものがあり、まちの歴史のつながりが感じられます。

文：紺谷 貴之（倶知安風土館 学芸補助員）



十字街から南 1 西 1 1966 年



カシワヤ
アサヒ燃料店
北海信用金庫
ニセコストア
よねや呉服店
高橋呉服店
及川精肉店



北 1 西 1 ～西 2 1967 年



吉田時計店
山崎呉服店
（都通り）
名畑商店
文化堂書店
高橋自転車店
藤田洋服店



北 1 西 1 1966 年



高山精肉店
西尾時計店
アイ電社
高橋洋服店



北 1 西 3 1967 年



細野菓子店
浅岡家具店
（隣）旧店舗
藤井菓子舗
山本電気商会
柴田時計店
駅前ホール

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

第 67 回麓彩会展

会期：開催中～ 12 月 7 日(日)

■第 2 展示室

小川原脩展「戦時下の画家～小川原脩の戦争を考える」

会期：10 月 4 日(土)～令和 8 年 1 月 18 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

ギャラリートーク「戦時下の画家～小川原脩の戦争を考える」

日時：10 月 4 日(土) 14 時～ 14 時 30 分 ※予約不要

会場：第 2 展示室（無料） 講師：沼田絵美（副館長）

■造形活動ワークショップ

とも先生とみる・かんじる・えがく じかん

「つくってみようくゆめのいえ」

日時：10 月 18 日(土)① 10 時 30 分～ 12 時、② 13 時 30 分～ 15 時

会場：ロビー（無料） 対象：小学生とその家族

定員：各回 6 組（1 組 3 名まで）※要予約

講師：中谷知美さん（倶知安小学校教諭）

予約：10 月 1 日(水)から電話または、電子申請で申込
（☎ 21 － 4141）



倶知安風土館のお知らせ

■寺子屋ミュージアム

「昔のオヤツ（デンブン編）」

日時：10 月 18 日(土) 13 時 30 分～ 16 時

場所：倶知安風土館 定員：10 名※要予約

講師：今井真司（風土館学芸補助） 参加費：200 円（材料費）

予約受付：10 月 17 日(金)までに電話申込（☎ 22 － 6631）

「作ろう！知ろう！ニセコ連峰②」

日時：11 月 8 日(土) 13 時 30 分～ 16 時 30 分

集合：倶知安風土館 定員：10 名※要予約

講師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰）

参加費：300 円（材料費）

予約受付：11 月 5 日(水)までに電話申込（☎ 22 － 6631）

美術館・風土館 コラボイベントのお知らせ

■共同ワークショップ 「どんぐりでコロコロアート」

日時：10 月 11 日(土) 10 時～ 12 時（雨天決行）

会場：倶知安風土館体験学習室（無料）

講師：小田桐亮（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：15 名※小学 2 年生以下は保護者同伴 申込：美術館に電話申込（☎ 21 － 4141）

■文化の日（11 月 3 日）は美術館・風土館無料開放日

両館、終日無料開放します。美術館では、コンクールの表彰式や制作イベントも開催します。

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一 般 500 円 [400 円]

高 校 生 300 円 [200 円]

小中学生 100 円 [50 円]

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一 般 200 円 [100 円]

高校生以下、美術館観覧者無料

※年間パスポート 500 円（発行日より 1 年有効）

開館時間は 9 時～ 17 時（最終入館 16 時 30 分）
※ [] 内は 10 名以上の団体料金
10 月の休館日 毎週火曜日、展示替えのため
美術館のみ 1 日(水)～ 3 日(金)

戦争と小川原脩

1945（昭和 20）年に第二次世界大戦が終結してから、今年で 80 年を迎えました。

小川原脩記念美術館でもこの節目に小川原脩展「戦時下の画家～小川原脩の戦争を考える」を 4 日(土)から開催します。小川原脩は戦中に時代の流れに従い、従軍画家として戦地へ赴き戦争記録画を描いていたことがあります。当館でも戦地スケッチなどを収蔵しており、2023（令和 5）年には小川原脩セレクション「戦地スケッチ展」を開催しました。

今回の展覧会でも小川原脩がどのように戦争と関わり、画家として戦時下を過ごしてきたかを紹介できる展示になるかと思います。この展覧会が戦争を知らない世代の方々に「戦争について」、「平和について」考えてもらえる場となれば幸いです。

私も報道や歴史上の出来事でしか知らない戦争について、小川原作品を通じて見つめ直してみたいと思います。

館 長 高橋 淳之 たかはし あつし